

# 広報あがけ 9

発行所 赤池町役場 編集 総務課 文書広報係 ☎(代表) 28-2004

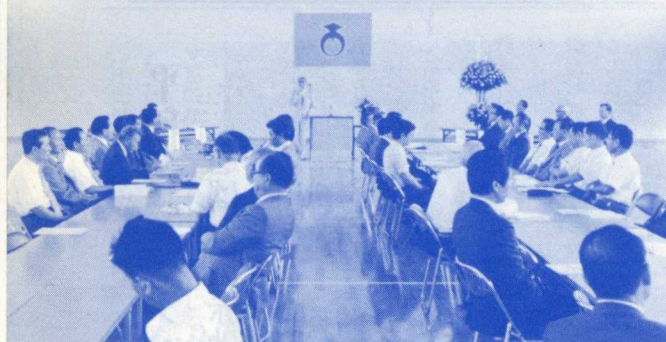
★町の人口★ 人口10,136(+9) 男 4,814(+6) 女 5,322(+3) 世帯合計 3,396(+14) 61年7月末日現在( )内は前月との比較です



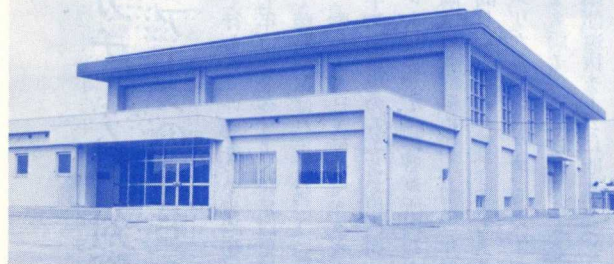
▼上野焼窯元群の中を上野峽へと向う国鉄バス ▲

昭和27年から34年間、多くの人々に利用されて来た国鉄バス。11月には廃止が予定されています。

9月は 固定資産税3期分 の納税月です

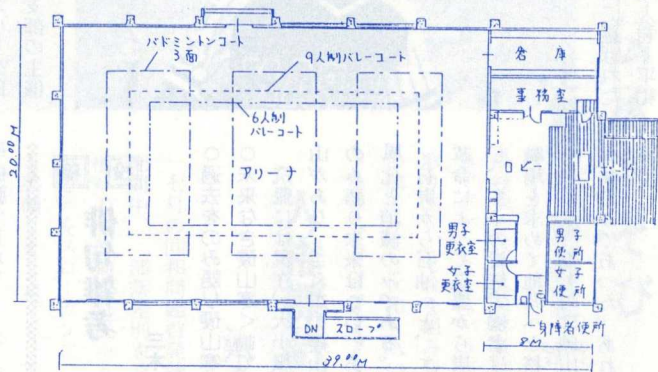


▶ 8月12日、関係者約70人が出席して竣工式が行われました◀



▶ 完成した勤労者体育センター◀

### 勤労者体育センター平面図



## 勤労者体育センターが完成

### 9,200万円(事業団8,950万円)の事業費で

町民プール横の総合運動公園の一角に建設していた「赤池勤労者体育センター」が完成し、八月十二日竣工式が行われました。

この体育館は、町の要請を受けた雇用促進事業団が、他の福祉施設と同様に、勤労者の方々にスポーツなどを通じて活力と鋭気を養っていたらと全国各地に設置している施設の一つとして赤池町に建設していったものです。

鉄筋コンクリート一部鉄骨造平屋建て、建築面積は八百七十四平方メートルで用地は町有地。事業団から町が建築委託を受け、総事業費九千二百万円で作りました。財源は事業団からの委託金が八千九百五十万円、町の財源は備品など二百五十万円程度です。

竣工式には関係者約七十人が出席、日野町長は、「町は財政難のため、無理に事業団にお願いして建設していただいた。これで過密状態の町民会館の利用も大きく改善できる。大いに利用してください」とあいさつしました。

同センターを利用する場合は、教育委員会(町民会館)へ申し込んでください。利用できる時間は午前九時から午後十時までです。使用料は後日決められます。

現在、卓球台五台、バレーボール一面、バドミントン三面の用具があります。



▶ 福祉センターに完成したゲートボール場、夜間も利用できます◀

### 福祉センターにゲートボール場

#### ＝宿泊者のためナイター設備も＝

赤池町老人福祉センター利用者のみなさんの念願だったゲートボール場が完成しました。

このゲートボール場は、下田川衛生組合の不燃物埋め立て地とセンターの間の緩衝地として、将来の公園化事業の第一回整備として造られました。

八月四日には、赤池町老人会十九チームが参加してコート開き記念大会が行われました。同コートには、センターの宿泊者のためにナイター設備もあります。ご利用希望の方は福祉センターへご連絡ください。

☎ 28-4646



▶九州総局へ廃止反対の要請をし、説明を受ける日野町長(中央)や立花議長(左)など関係者のみなさん◀

町内の国鉄バスの二路線(直方→上野峡・赤池駅→上野峡)が、今年十一月のダイヤ改正を期に廃止が予定されています。

現在、直方→上野峡間は一日八往復。上野峡→赤池駅間は一日二往復の国鉄バスが運行されています。

国鉄の今年五月の調査では、町内の二路線はいずれも廃止対象の第三種路線(平均乗車人員がどの区間をとっても五人以下)に該当し、上野峡→赤池駅間は、四・八七人、直方→上野峡間は七・四四人で直方市の上境→上野峡間は三・五九人となっており、直方→内ヶ磯線は残りわずか、赤池町内の国鉄バスはいずれも廃止対象になっています。

門鉄の話によると「九州のバス路線は、収入の二倍の赤字が出ており、借金の利子を含めると三倍になる。五十九年に廃止を予定し路線の変更などしたが利用者が増えない」とのこと、廃止申請はやむを得ないとのことでした。

**行政、議会、住民で廃止反対を訴え**

町や議会は、この国鉄バス路線は、町民の足、特にお年寄りなど交通弱者にとっては、唯一の公共交通機関だということで、国鉄側には「廃止には断固反対である。通勤、通学や鉄道との連絡など、

# どうなる上野地区の足(公共輸送)

## 観光開発やお年寄りに大きな影響

利用しやすい時間帯にダイヤを変更し、存続してほしい」との申し入れをして来ました。

上野峡の観光開発や上野焼などの地場産業を育成し、町の活性化を図るといふ、町の発展計画に対してもきわめて大きな痛手となり八月二日にも、町長、議長はじ



上野焼協同組 理事長 高鶴 智 さん (皿山)

唯一の公的輸送機関が廃止されれば、上野焼や福智山を中心とした観光面で大きな影響がある。現に、夏休みに窯元を巡る子ども連れのバス客もあり、上野焼にとっては大きなマイナス。また、自家用車を持たないお年寄りには厳しい状態を強いることになり、あったものが無くなるのは「困る」の一言につき



よく国鉄バスを利用 熊谷 マツエ さん (下小路)

困ります。町立病院にいい先生が来られて国鉄バスを利用していましたが、病院にも行けなくなりません。現在は、利用したいときに使えない。赤池駅の連絡が良ければもっと利用者も増えるはず。町のマイクロバスとか福祉バスを料金を取ってでも回すことはで



上野峡 茶屋を営む 山根 年子 さん (皿山)

お年寄りもお孫さんを連れてよく遊びに来られます。日曜日は登山客でかなり混んでいます。そうでなくてもお年寄りが多い地域なのに、通院や買い物など足を切られたのと同じ。もちろん店の売り上げも減りますが、将来は孫たちの通学にも困ります。

め十人のみなさんと国鉄九州総局自動車部長へ廃止反対の要請をしました。

**昭和27年12月1日に路線開設**

この二つの路線は、昭和二十七年十二月一日に開設され、多くの人々に利用されてきました。

国鉄バスに乗って白糸の滝に行ったり福智山へ登ったり、あるいは窯元めぐりをした人も多いことでしょう。

ちなみに、直方→内ヶ磯路線は昭和三十一年に開設されています。昭和六十二年四月の国鉄分割民営化を前に、存続は大変きびしい情勢になっています。

きないのでしょか。全く動きがとれなくなります。



